

[所 感]

長崎市議会議員 佐藤 正洋

今回、「福州市友好都市提携 30 周年記念公式訪問団」の一員として参加させていただきましたので、その所感をご報告いたします。

福州市は、福建省の省都で市内の人口も 271 万人と多く、永い歴史を感じるとともに、街には高層ビルが林立し、さらに各所で高層ビル・高速道路等の建設が推進されており、エネルギーで活気に満ちた経済発展上にある町であることを強く印象付けられました。

福州市の長崎市訪問団の受け入れ態勢は、各所で熱烈歓迎の横断幕の設置など万全の対策が講じてあり、公式訪問・栄誉市民授与・合意書の交換などは厳粛で崇高な雰囲気の中で執り行われた。また、移動時には、すべてパトカー一等先導車を配備して交通規制を徹底し、交差点でも交通を遮断してしまうなど中国の国民性を改めて感じました。

私は、水産交流コースに参加しましたが、以前から両市の水産技術等の交流がなされており、現地研修では、昆布の種付けや養殖技術の取り組み、加工の過程をつぶさに見学でき大変参考になりました。また、あわびの海上養殖施設では、ハイブリッドあわびの養殖が広範囲に行われ、6 億個のあわびが養殖され、3 年間で計画的に出荷され、3,000 人の方々がその養殖に従事されており、雇用の確保になり、大きな産業に発展している状況です。また、あわびは福州市での全消費量の 80%を賄っているということです。養殖箱をつるした筏は、波静かな広い湾に広範囲にわたって養殖されており、台風時や赤潮対策などは、人力で移動し対応している。

地形や波静かな環境など大村湾によく似た状況にあります。この大村湾で、あわび養殖など新たな漁業振興ができないか関心を覚えた。

昆布やあわびをはじめ水産業全般にわたり、今後も両市の積極的な水産交流を重ねていただき、長崎市の水産振興に大いに寄与していただくことを願っております。